［戦史部のあゆみ］
戦史研究発表会の歴史

庄司潤一郎

防衛研究所の行事のなかで最も歴史が古くかつ盛大なものの一つが、戦史部の主催する戦史研究発表会である。戦史研究発表会は、「戦史叢書」の刊行がほぼ完了するとともに戦史の調査研究に重点が移行したのを契機とし、部内外研究者等の意見を聞くことによる研究内容の一層の向上を目的として、昭和五二年より開催されており、本年度は第二二回に当たる。

毎年概ね七月に、当初は二日間のち一日間にわたって、目黒の防衛研究所（第三回までは市ケ谷の陸上自衛隊幹部学校）において、挙行されている。毎回三～六名の戦史部研究員の発表とともに、著名な部外の研究者による特別講演、シンポジウムも行なわれており、これまでの主要なシンポジウムは、「日独伊三国同盟の再検討」、「太平洋戦争の史的位置づけ」、「日中戦争から日英戦争へ」、「日米の戦史からみた特攻の歴史的考察」などである。

本発表会は一般に広く公開されており、最近三年でも平成八年二四七名、平成九年三一九名、本年二四〇名というように、毎年二〇〇名を越える参加者がある。その内訳は、旧軍体験者、防衛庁・自衛隊関係者、そして大学の教官をはじめとする部外研究者であるが、近年は後二者が主体となりつつあり、特に大学院生などの若年層も増えつつある。それにともない、発表会の目的も、研究内容の向上から部内外に対する成果の公表へと移行している。

さらに戦史部は、日本で唯一の戦史センターとして内外より期待されているが、本発表会は、日本における戦史研究の相互交流の場としても機能していると言えよう。

一方、戦史部の研究員は本発表会のほか、昭和五六年より六本木の防衛庁で開催されている防衛研究所主催の防衛研究所研究成果発表会（平成八年をもって廃止）でも研究発表を実施している。

戦史研究発表会一覧

発表題目	発表者
第1回：昭和52年6月22～23日　於）陸上自衛隊幹部学校（市ケ谷）	
ベトナム戦争初期における南ベトナム軍等の平定活動	谷　虎雄
独ソ戦緒戦におけるソ連空軍の運用	小林康男
戦史研究の方法論－序説－	栂　博
朝鮮戦争勃発時の国連軍（海軍）の対応	吉成惟義
大正期の陸軍軍縮－近代化を阻害した要因の考察－	名和田雄
日米開戦に至る米国の対日抑止政策と日本の対応	野村　實
第2回：昭和53年6月21～22日　於）陸上自衛隊幹部学校（市ケ谷）	
太平洋戦争前の我が本土防空戦備に関する考察	角　暁
水陸両用作戦についての一考察－統合作戦の視点から－	八束秀則
第1次国共内戦初期における中国共産党の戦略戦術	高田甲子太郎
第2特務艦隊の海上交通保護作戦－第1次世界大戦・地中海－	新倉幸雄
陸軍パンフレット問題－国家総動員法成立の側面からの考察－	生田　惇
ソ連側からみたノモンハン事件	中山正夫
［特別講演］軍部史研究の諸問題	伊藤　隆
第3回：昭和54年6月12～13日　於）陸上自衛隊幹部学校（市ケ谷）	
ジョンソンの北爆とニクソンの北爆－北爆にみる現代航空戦力運用の考察－	藤田統幸
北支那方面軍の涿州保定会戦についての一考察	橋本暉一
フィリピン沖海戦にみる日本海軍作戦通信	吉松正博
神風特別攻撃隊に対する軍令	後藤新八郎
関東軍が満州において果たした役割－1931～1945年－	高井三郎
ハワイ作戦における第2撃問題と作戦目的に関する考察	竹下高見
ＳＡＬＴ前史－ＡＢＭをめぐる米ソ戦略対話·1960～1969年－	岩島久夫
［特別講演］軍事史研究に対する要望	梅渓　昇
第4回：昭和55年7月23日～24日　於）防衛研修所	
大東亜戦争の将帥はいかに選抜育成されたか	熊谷光久
第2次大戦終末期における国際環境と日本	波多野澄雄
兵語の変遷にみる旧軍用兵思想の一断面	前原　透
米軍からみた旧軍の地上防空について	末永元美
幕僚活動を中心とした「レイテ」地上決戦の一考察	鬼頭和友
朝鮮戦争における機雷戦	渡辺　健

［特別講演］天津租界封鎖問題について	臼井勝美
第5回：昭和56年6月24～25日　於）防衛研修所	
米“マジック”情報に見る日米開戦経緯の周縁	岩島久夫
本土決戦準備における衛生管見	山岸酎人
モスクワをめぐるドイツ軍内部の論争－貴重な1ヵ月の空費－	田中賀朗
米国統合参謀総長会議の構成員について－その経歴背景の特色－	赤塚憲
2．26事件後における陸軍人事刷新について	田中慶美
中東戦争比較研究－先制と反撃－	田上四郎
［特別講演］対外政策決定過程における陸軍－明治末期･大正前期を中心として－	北岡伸一
第6回：昭和57年7月21～22日　於）防衛研修所	
仏印武力処理をめぐる外交と軍事	赤木完爾
ソ連空軍に及ぼした冷戦の影響	小林康男
今世紀初頭の海戦における通信	吉田昭彦
レイテ航空決戦における敗北主要要因の一考察	岡崎守雄
陸上自衛隊における戦史教育についての一考察	白石博司
ベトナム戦争における米第3海兵師団の作戦についての一考察	西村仁
［シンポジウム］日独伊三国同盟の再検討 野村實・三宅正樹・義井博	
第7回：昭和58年7月20～21日　於）防衛研修所	
汪精衛和平工作をめぐる諸問題	高橋久志
朝鮮戦争におけるアメリカ空軍	北村哲三
対馬防衛史－要塞を中心として－	原剛
日本陸軍航空運用思想に関する研究－満州事変以後、大東亜戦争開戦まで－	杉原正一
陸軍の後方、兵站制度上における問題点	岡田邦彦
張鼓峯事件の再検討－その実態と歴史的意義－	中山隆志
［シンポジウム］太平洋戦争の史的位置づけ 三輪公忠・大畑篤四郎・秦　郁彦・安藤仁介・栂　博・外山三郎	
第8回：昭和59年7月25～26日　於）防衛研修所	
第1次世界大戦における戦時通商と中立制度の動揺	菊地宏
日清戦争における政戦略について	野田重雄
南方作戦準備に伴う陸軍の教育訓練－陸軍中央部の施策を中心として－	溝部竜
野戦砲の研究開発における「作戦上の要求」の実態と問題点	平山貫起
小笠原方面の防衛強化に伴う海上輸送と彼我の攻防	蜂須賀智昭

参謀本部、軍令部情報部門の変遷－作戦部門との関連について－ ［シンポジウム］第2次世界大戦における連合国の戦争指導者 －その人物と政戦略－河合秀和・猿谷要・木村汎・Alvin Coox	有賀　傳
第9回：昭和60年7月24～25日　　於）防衛研究所	
日本陸軍における「攻防」の理論と教義 大戦終末期における日本の和平構想 ベトナム戦争地上戦の一断面－サイゴン北方地域における索敵撃滅作戦－ ベトナム戦争における米航空作戦の指揮統制について 第3次中東戦争におけるイスラエル空軍の航空奇襲 スイス中立政策の史的一断面－第2次大戦下における経済戦争－ ［シンポジウム］第2次大戦終結と連合国対日行動の諸問題 斎藤真・Goordon Daniels・平井友義・細谷千博・大畑篤四郎・池井優	前原　透 波多野澄雄 野坂　裕 管　友彦 斎藤　剛 田崎英之
第10回：昭和61年7月16～17日　　於）防衛研究所	
北清事変における連合作戦と日本の対応 大東亜戦争における作戦と物資動員能力 幕末における江戸湾の防備－湾口防備から内海防備へ－ 陸海軍航空予備役下士官操縦者養成－その実態と意義について－ ソ連満洲進攻作戦時における諸問題 革命と軍隊－チリ人民連合政権の軍隊対策－ ［特別講演］昭和の60年を考える ［シンポジウム］太平洋戦争の再考 本間長世・伊藤隆・岩島久夫・萩原延寿・秦郁彦	川野晄明 横山彰允 原　剛 磯部　巌 中山隆志 狩野信行 江藤　淳
第11回：昭和62年7月29～30日　　於）防衛研究所	
陸軍におけるＣＯＭＩＮＴの萌芽と発展－陸軍通信情報史の基礎的研究－ 日中戦争と第1次近衛内閣の対応－近衛文麿を中心として－ 南太平洋作戦における陸海軍の統合に関する研究－ガ島戦初期の戦争指導－ 米軍のガダルカナル攻勢における統合問題 国土防衛における住民避難－太平洋戦争にみるその実態－ 「統帥権独立」理論の軍内での発展過程 ［特別講演］近代アジアにおける日本－その光と蔭－ ［シンポジウム］日中戦争から日英戦争へ 森松俊夫・義井博・池田清	中村文雄 庄司潤一郎 田崎英之 糸永　新 今市宗雄 前原　透 衛藤瀋吉
第12回：昭和63年7月27日　　於）防衛研究所	

作戦速度を中心としたマレー作戦の考察	中尾裕次
陸軍における航空運用思想について－軍戦備からみた陸軍の航空価値観－	大井哲夫
海軍航空運用思想と匠思考について	畑中洋彦
海軍派兵問題と日本の対応－第2特務艦隊の地中海派遣を軸として－	平間洋一
日本陸軍の対戦車兵器開発について－運用(要求)と技術の関係を主体に－	平山貫起
昭和陸軍における「わが国独特」の「戦略戦術」の系譜	前原透
第13回：平成元年7月25日　於）防衛研究所	
満州事変初期の戦争指導－軍中央部の不拡大構想が破綻した原因－	白石博司
日米開戦と海軍－国策決定と作戦計画・命令の関連を中心に－	川野晄明
日本陸軍における「統帥指揮」の研究	前原透
インドシナと連合国・1942～1945	赤木完爾
[特別講演] 戦争史随想	児島襄
第14回：平成2年7月30日　於）防衛研究所	
米国・フィリピン関係の史的展開－軍事基地をめぐる応酬·1947～1988年－	木村卓司
朝鮮戦争初期における米国の戦争指導の一考察	北村哲三
太平洋戦争における米軍の双頭体制－設定の背景、要因等－	糸永新
第2次世界大戦間における米国統合参謀長会議の組織的発展	森山博和
[特別講演] 日本にとっての太平洋戦争と東京裁判を顧みる	野村實
第15回：平成3年7月24日　於）防衛研究所	
太平洋戦争に至るルーズベルト大統領の軌跡	米岡道夫
南方軍の初期作戦指導－作戦日程短縮努力を中心として－	中尾裕次
日本陸軍の典令における「命令」「服従」と「独断」	前原透
[特別講演] 戦史室改編前後	近藤新治
日本海軍と国際法－対米最後通告をめぐる日本海軍の対応について－	市来俊男
第16回：平成4年7月24日　於）防衛研究所	
日本海軍と対独提携問題	相澤淳
ベトナム戦争－1965年7月のジョンソン米大統領の決断－	秋谷昌平
日本陸軍の対上陸作戦思想－島嶼作戦時の水際撃滅思想を中心として－	近藤忠助
帝国陸海軍特別攻撃隊の実態	服部省吾
[シンポジウム] 日米の戦史からみた特攻の歴史的考察 生田惇・木名瀬信也・妹尾作太男・服部省吾	
第17回：平成5年7月6日　於）防衛研究所	

大東亜戦争における攻勢終末点拡大の要因	中尾裕次
スマトラ石油資源地帯の防空作戦	斎藤有司
南西方面航路における船団護衛作戦	伊藤英敏
[特別講演] 日本海軍の対米戦略に何故シナリオが無かったか	千早正隆
第18回：平成6年7月5日　於）防衛研究所	
第一次上海事変の勃発とその歴史的意義－日本海軍の対応を中心として－	影山好一郎
アラブ・イスラエル戦争における関係国海軍の活動・1948年～73年	水落睿二
支那事変の拡大要因について－現地軍の作戦指導を中心として－	松本圭介
[特別講演] 近代日本の政軍関係	北岡伸一
第19回：平成7年7月4日　於）防衛研究所	
大東亜戦争における攻勢転移遅延の要因	中尾裕次
マリアナ沖海戦における日本機動部隊の索敵と攻撃	北沢法隆
「帝国国防方針」政戦略考	黒野耐
[特別講演]「聖断」の語ること	半藤一利
第20回：平成8年7月4日　於）防衛研究所	
日中戦争拡大後の戦争指導－事変を更に泥沼に導いた要因－	松本圭介
「国策の基準」と日中戦争	影山好一郎
日本における太平洋戦争観－戦後50年、ドイツとの比較を中心として－	庄司潤一郎
[特別講演] 近代日本の戦争観と石原莞爾	福田和也
第21回：平成9年7月3日　於）防衛研究所	
第一次世界大戦における欧州戦線派兵要請と日本の対応	永井煥生
第一次山東出兵における政策決定過程の諸問題	溝部竜
日中戦争の全面化と米内光政の中国認識	相澤淳
[特別講演] 市ヶ谷台史料の修復について	坂本勇
大東亜戦争の世界史的意義－京都学派をめぐって－	坂本多加雄
第22回：平成10年7月2日　於）防衛研究所	
戦時下仏印におけるフランスの対日協力	立川京一
開戦経緯の経済的側面	荒川憲一
湾岸戦争にみる米軍の戦略展開－ＪＯＰＥＳを中心にして－	高橋弘道
[特別講演] 大東亜戦争・太平洋戦争はいかに語られてきたか	保阪正康

防衛研究所研究成果発表会戦史部発表一覧

回	年　月　日	発　表　題　目	発　表　者
1	昭和56・6・16	マリアナ沖海戦における日米機動部隊の作戦構想 日本占領における非軍事化と復興をめぐって	吉　田　昭　彦 波多野　澄　雄
2	昭和57・10・22	シベリア鉄道の軍事的意義に関する史的考察 陸軍航空軍備の拡張と操縦者の養成について	木　村　和　夫 磯　部　　巌
3	昭和58・10・27	イギリス海軍の太平洋戦域参加問題・1942～1945年 ヨーロッパの戦争であった太平洋戦争	赤　木　完　爾 岩　島　久　夫
4	昭和59・10・30	陸・海軍の民間防空に果たした役割 作戦における都市の処理－マニラの戦闘について－	服　部　雅　徳 前　原　　透
5	昭和60・10・16	代理戦争から見たソ連空軍の運用思想 太平洋戦争における米海軍の作戦指導	小　林　康　男 糸　永　　新
6	昭和61・10・15	青島攻略における日英連合作戦 大東亜戦争下における民防空政策	平　間　洋　一 深　谷　満　雄
7	昭和62・10・14	ソ連の着上陸作戦、その考え方と奇襲 日中戦争における政戦略の諸問題	中　山　正　夫 高　橋　久　志
8	昭和63・10・19	指揮命令の発出手続－開戦時の大陸命を中心として－	服　部　雅　徳
9	平成元・10・18	資源・人口問題の観点からみた日中戦争	庄　司　潤一郎
10	平成2・10・17	大東亜戦争時における陸・海軍統帥部の統合問題	永　江　太　郎
11	平成3・10・23	日本海軍の洋上防空は何故弱体であったか	北　沢　法　隆
12	平成4・10・20	大正期の陸軍軍縮について	川　島　　正
13	平成5・10・19	対外危機における帝国議会の対応について	庄　司　潤一郎
14	平成6・10・18	日本海軍の戦略とドイツ	相　澤　　淳
16	平成8・9・26	第四次中東戦争と核の脅威	喜　田　邦　彦

＊研究成果発表会は、平成8年度をもって廃止